

第133号

教育



会長挨拶
特別寄稿
学校自慢（豊橋支部）
支部トピックス（豊川支部）
教室の窓から（幸田支部）
研究校紹介（知立支部）
令和三年度 本部事業
三教研役員一覧
教育随想



会長挨拶



今自分たちにできること、 しなければならぬこと

三河教育研究会 会長 岡田 守

五月十九日、蒲郡市民会館で予定されていた令和三年度三河教育研究会定期総会

は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、昨年度に引き続き、中止せざるを得ない状況となりました。本会の活動の目的を共有し、活動の成果と次への指針を確認する重要な会を開催できなかったことはとても残念なことでした。総会が開催できなかった場合には、会則第十一条により、四月十四日に行われた仮評議員会の議決を総会に代えさせていただきます。先日全校に配付した総会要項のとおり認められておりますので、この場をお借りしてご報告申し上げます。

本年度、皆様方のご推挙をいただき、歴史ある三教研の会長を拝命いたしました。もとより微力ではありますが、「三河のすべての子らに、三河の教師たちの手による、優れた教育を保障したい」という設立当時から受け継がれてきた願いをつなぎ、三河小中学校長会や愛知教育文化振興会を始めとする教育諸団体のご支援をいただきながら、誠心誠意努めて

まいります。格別のご支援をお願い申し上げます。

本会は、三河で教職に携わる一万二千人余の会員で構成する地区最大の教育研究組織です。昭和三十六年五月に設立総会が開かれ、今回の総会で満六十歳を迎えることとなります。人生にたとえれば還暦です。本年度は、設立当初に立ち返り、会の意義を確認して、新たな一歩を踏み出す大切な年でもあると考えています。

本会の目的は会則第二条にあるとおり、「会員相互の研究を深め、小・中学校教育の推進をはかること」です。その目的を達成するために、地区ごとの支部、教科・領域等の部会・委員会、三常任委員会を組織し、相互に連携をしながら活動を進めてきました。先輩の先生方から脈々と受け継がれてきた歴史の重さ、「まずはじめに子どもありき」の教育理念を、会員がそれぞれの立場で大切にしながら、これからの教育活動を進めていくことが我々に与えられた使命でもあると言えます。

支部の活動においては、各支部の特色

を大切にして、郡市の現職研修との連携をもとに、子どもたちの活動や教員研修を力強く進めていくこと、そして、支部同士の横のつながりを上手に活用していくことを、三教研の組織として大切にしたいと考えています。

部会・委員会の活動では、それぞれの研究大会、研究集録を通じて、実践研究の成果を共有し、授業力、指導力の向上を図る努力をしていきたいと考えています。また、文化振興会の刊行物の編集も、部会の重要な活動です。「編集は三河教育研究会、刊行は愛知教育文化振興会、事業の推進は三河小中学校長会」という三者の協力体制を維持しながら、自分たちが、自分たちの手でつくる三河の子どもたちのための刊行物であることを会員全体で確認し合いたいところです。

平成二十二年度に立ち上げられた授業力養成講座も、事業として軌道に乗り、若い先生方やミドルリーダーの指導力育成に成果をあげていると自負しています。「授業で子どもを育てる」「授業で子どもを鍛える」という三河教育の原点に

立ち返って企画されたこの事業です。その原点を再確認し、さらに充実するように知恵を出し合いたいと思います。

昨年来のコロナ禍にあつて、総会を始めとして、活動が中止になったり、自粛や縮小を余儀なくされたりしている現実があります。目の前の子どもたちの学びたいという気持ちは変わりありません。いかなる状況であれ、教育は粛々と営み続けられていかなければなりません。新型コロナウイルス感染予防だけでなく、働き方改革、学び方改革、GIGAスクール構想など、直面する課題はたくさんありますが、今まで脈々と受け継がれてきた伝統に立ち返り、今自分たちにできることは何か、今自分たちがしなければならぬことは何かを考え、教育を進めていくことこそ本会の役割だと考えています。

今秋には、「六十年記念誌」の発刊も予定されています。先人に学びながら、明日の三河の教育を考えていきたいと思ひます。ご支援、ご協力をよろしくお願ひします。

※七月初旬発行の教育文化振興会発行「教育と文化」に三教研についての記事が掲載されます。特に若い

先生方に読んでいただきたい内容です。ホームページとともにご覧ください。



▲ 三河教育研究会の
ホームページ



アン・ラーニング

愛知教育大学

森 勇 示

現場の主体性に根ざした教育研究組織として発展してきた三河教育研究会（以下、三教研）。設立から六十年経った今、今後、さらに発展していくための組織の在り方について、三河の教育ともつながりが深い、愛知教育大学の森勇示先生にご提言をいただきました。

毎夏、研究会に参加させていただきありがとうございます。お陰様で現場実践と乖離しない研究の体を保つことが出来ます。この度の執筆の機会に際し、三河教育のさらなる発展を期待し、アン・ラーニングについて提案させていただきます。

言うまでもなく、三教研が地域の先生方のレベルアップを果たしてきたことは間違いないと思います。ただし、組織は形骸化していないか自己点検も必要なのではないかと思えます。換言すれば、組織は「学習する組織」になっているか？その学習は「成長する組織」としての学習かと問うてみてはどうでしょうか。

学習はラーニング、復習はリ・ラーニングです。これに加えてアン・ラーニングの視点を自己点検に入れてみてはどう

でしょう。アン・ラーニングの「アン」は「不」という否定や反対を意味する接頭辞です。すると、アン・ラーニングは「学ばないこと」と思われるかもしれませんが、「それまで学んできたことを一旦忘れ、新たに学ぶ」という意味です。湯飲みの冷めたお茶を捨てないとおいしいお茶は飲めません。

実践発表の時、私は体育の助言者を務めさせていただいております。発表の内容によつては①ラーニング②リ・ラーニングだと感じる場合があります。

①は若手の先生に必要なことだと思います。およそ五十年の経験かと推察します。その内容には授業実践に関する「基本の『き』」を「やりました」という発表もあります。興味深いのは、若手の先生が何に課題意識をもっているのかという事です。その例には授業を進める効率に焦点を当てているものもあります。子どもグループ編成や手作り用具の工夫で活動時間が増えたなどという報告です。

②のリ・ラーニングは時の教育ワードを反映する研究に代表されます。今（本稿執筆時点）、時の教育ワードに「主体的・

対話的で深い学び」があります。この趣旨に関連する主題の研究に各校・各教科で取り組むのはよいとしても、「主体的学び」で主体は保たれているのか、「対話的学び」は単なる「話し合い」を行っただけではないか、などと自己省察してみるとよいでしょう。成果ありき、予定調和の実践になってしまうと、主体は破壊されている可能性が考えられます。対話によるデータ収集によつて「知の構造化」ができていないと「深い学び」に至らないことが想像されます。リ・ラーニングでは教育ワードを反映させただけの「やってみた実践」になるかもしれません。

ここまでの①②でも、「学習する組織」になっていると思いますが、我が愛する三教研は、そんなことでは許しません。「成長する組織」を目指してほしいと願っております。「いや、もともと目指しているよ」とお叱りを受けることを覚悟の上で、アン・ラーニングのススメをここで提案させていただきます。

まず、上記①②を卒業すること。そのために若手の先生は研究的実践や報告物

の執筆に数年間突っ走ってはどうか。次いで、時の教育ワードを反映させたい研究なら、ワードの意味をとことん原理的に検討する機会を設けてはどうでしょうか。これは先生方にとっての「対話的学び」になります。そのために一旦実践から離れ、例えば机上の空論でも吟味してみる必要があると思っています。先生方にとって授業は職務であり、計画通り遂行するだけで任は果たしてあります。ところが、アン・ラーニングでは「授業は研究的実践」と考え、従来の方法をやめてみることを善しとします。そして、斬新なアイデアの創出を目指します。

斬新なアイデアの作り方は数多あると思います。例として、実践で「何をやるか」より「何をやらないか」と考えたり、（パイナップルにペンを刺すように）今までにない新たなことを組み合わせるたりすることが考えられます。もともとイノベーションは「新結合」という意味です。先生方が次々とイノベーションを起こし「成長する組織」としての三教研が、三河の教育・愛知の教育・日本の教育を変革するような存在になることを祈念しております。

森 勇示（もり ゆうじ）

埼玉県公立中学校教員として約二十年間勤め、上越教育大学大学院学校教育研究科修了を経て、愛知教育大学保健体育講座の教授を務める。体育の授業における具体的かつ的確な指導法の助言を行う。また、多様な視点から授業を展開する豊富なアイデアによる指導を行っている。



受けつがれる思い

～岩屋緑地～

豊橋市立飯村小学校

岩屋緑地は豊橋市の東部にあり、山頂には岩屋観音、また千本を超える桜並木もある広大な公園です。

岩屋緑地と本校児童とのつながりは一年生から始まります。豊かな雑木林は木の実がたくさん落ちています。子どもたちは「岩屋緑地に親しむ会」の方々に木の実の名前を教えてもらいながら一つ一つ大切に拾い、生活科の授業に生かしています。

四年生になると、総合的な学習の時間にて岩屋緑地について本格的に学びます。季節によって様々な変化をみせる植物だけでなく、豊橋市の養蚕業の先駆者となった小沢志ちの銅像や防空壕などがあり、自然と歴史の両方を学びます。季節ごとに岩屋緑地に出かけ、その都度「岩屋緑地に親しむ会」の方々とかかわ



「岩屋緑地に親しむ会」の方々とオリエンテーリング

(文責・松河由美子)

り、最終的には壁新聞にまとめて発表します。さらに、三年生に向けても発表し、学びを継続させます。また、毎年二月には「桜植樹の会」に参加し、地域の方々と共に桜の木を植えています。

子どもたちを惹きつけるのは岩屋緑地そのものだけでなく、それを守っていくこうと熱い思いをもってボランティア活動を行う人々です。「岩屋緑地に親しむ会」の方々の思いを知り、地域の財産である岩屋緑地の素晴らしさと尊さを知ります。

子どもたちは、この学習をきっかけに、ふるさと飯村を愛する気持ちを育みます。そして郷土を愛する気持ちは脈々と受けつがれていきます。

支部トピックス



家庭・地域の教育力の活用を図り、温かい人間関係作りを目指す

豊川市立天王小学校

本校は、豊川市の南東部に位置し、学区の北側には住宅地や商業施設が、南側には田園地帯が広がっています。児童数二六五名の小規模校です。教育目標は、「豊かな人間性を培い、未来をたくましく生きぬく子どもを育成する」です。この教育目標と目指す子ども像を実現するために家庭・地域の教育力の活用を図った取り組みを行っています。

天王小といえば、「米作り活動」と言われています。開校三年目から現在まで続く、天王小学校の伝統行事です。この「米作り活動」は、実習田活動から「天王まつり」の行事につながっています。田んぼ名人やPTAといった地域や家庭との連携と縦割り班活動である「わくわく班」とも関連して取り組んでいます。実習田活動は、田んぼ名人の指導のもと、毎年五年生が中心となって活動に取り組んでいます。田んぼ名人から学んだことを紙芝居にし、低学年に田植えや稲刈りの方法を教えます。わくわく班で取り組む田植えと稲刈りは、高学年が低学年へ指導をし、伝統を引き継ぐ重要な時間となっています。

学校とPTAが共同で運営している「天王まつり」は、児童・PTA・地域の方々と稲作の収穫を祝い、できたお米でお餅をつき、全校で会食する感謝祭です。本校では、田んぼ名人以外にも、読み聞かせの会、あいさつ隊など多くの学校応援組織もあります。お米の収穫を祝うだけでなく、本校を支えてくださっている地域の方々への感謝を伝える会でもあります。

今後、実習田活動から「天王まつり」へとつながる活動を大切にし、保護者と地域にとって通わせたい学校になるよう努めていこうと考えています。

(文責・加藤 賢二)



「わくわく班」で行う田植え

教室の窓から

笑顔いっぱい

「学校って楽しいな！」

幸田町立幸田小学校
大岩 宣貴

本校では、平成二十八年度から平成三
十年度までの三年間、西三河地方教育事
務協議会研究委嘱の教育研究を行いまし
た。「学校って楽しいな！」という研究
主題は、本校職員や子どもたちの合言葉
として浸透していました。この主題の「楽
しさ」とは、「授業における楽しさ」「確
かな日常生活における楽しさ」「地域や
異学年との交流における楽しさ」の三つ
の手だてを意味しています。学校生活に
おける本質的な楽しさを味わうことがで
きるように、これらが相互作用を及ぼし
合うような手だてを講じながら、子ども
たちの成長を支えました。

そして、研究発表を終えてから多くの
職員が入れ替わりましたが、研究で取り
組んだ実践は今でも本校の教育研究の要
として残っています。中でも、三十五の
項目からなる「学習のかまえ」は、授業
の基盤となる温かい雰囲気づくりのため
に、全ての学習活動における確かな学習

習慣の定着を図るものです。教員と子どもたちのどちらにとっても意識すべき項目があり、定期的に学級の実態を振り返るようにしています。

昨年度、私が担任をした五年生は、低、中学年において、この「学習のかまえ」によって、学習習慣を定着させてきた子どもたちです。子どもたちにとって温かい雰囲気が進められる学習活動は、一人一人の考えを温かい反応で受け止める教員と、仲間の意見を認めながら聞く子どもたちの態度などにより、安心して自分の考えを表現できる雰囲気づくりにもつながっています。

今後も「学習のかまえ」の定着を図りながら、子どもたちが「学校って楽しいな」と思い続けられる支援を続けていきたいと思っています。



自分の考えを説明する様子

研究校紹介

自己を見つめ、仲間と語り合うことで
よりよく『いきよう』とする生徒の育成

― 知中デザインの道德授業を要にした道德教育の研究 ―

知立市立知立中学校

ある日、生徒から「道德で考えてみたい話があります。」と申し入れがありました。その生徒は、いじめをテーマにした動画を視聴していて、クラスの仲間だったらどんな考えをもつのか気になったそうです。

本校は、平成三十一年度より知立市教育委員会の研究委嘱を受け、道德教育を充実させてきました。そして、その成果は、様々な場面で表れています。

例えば、先ほど記した、生徒の言動からも見取ることができます。生徒が自主的に教材を持ってきたのは、日々教師が多様な教材で授業を行い、道德教育を充実させているからです。また、仲間の考えを知りたくなったのは、普段から自己を見つめ、仲間と語り合うことで、よりよく『いきよう』としているからだと推測できます。

本校が、ここまでくるには、独自の「道德教育全体像」を作成し、全職員で取り組んだ道程がありました。

【研究の概要】

独自の「道德教育全体像」の柱は三つあります。

一つ目は、生徒の実態を捉え作成した「道德プラン（年間指導計画）」

二つ目は、生徒の認識の変容を促す「知中デザインの道德授業」

三つ目は、生徒の認識の変容から起こる言動の変化を教師が的確に捉え勇気づける「ハートフル活動」

中でも、愛知教育大学の鈴木健二教授が提唱する「小さな道德」の理論を取り入れた「知中デザインの道德授業」と、生徒を勇気づける「ハートフル活動」に力を入れています。授業で『いきかた（生き方）（生き方）』を考え、行動しようとする生徒を教師が勇気づけることで、目指す生徒像である、よりよく『いきよう』と主体的に行動する生徒を育てているのです。

令和三年十月二十一日に研究発表会を予定しています。ぜひ当日は、よりよく『いきよう』とする生徒の姿をご覧ください。

（文責・後藤 裕考）



仲間と語り合う

生きる力を育成する三河教育

学び合い、学び続ける教員として

総務委員会

三河教育研究会（以下、三教研）は、子どもの学びを中心に据えた教育活動を根幹におき、時代の思潮に応じた教育活動を追究してきました。これまで、時代の要請に合わせた多くの提言がなされ、成果をあげてきました。

昨年度は、新型コロナウイルス感染症の影響による休校から始まる一年でした。そして、例年実施していた部会・委員会や集合型の研修が中止・延期を余儀なくされました。しかし、三河地区の学校現場を見渡すと、「授業の動画配信」や「オンライン授業」の取組、「一人一台のタブレット整備」など、子どもの学びを保障するための動きが広がってきました。「一人一人の子どもを大切に」「いかなる状況も学びを止めない」という三河教育のスピリットがそこにはありました。今年度も、新型コロナウイルス感染症の拡大に対する不安は消えませんが、一人一人の子どものために、今できることを模索しながら、三教研の活動を充実させていきます。

小学校においては昨年度より、中学校においては今年度より、新学習指導要領が完全実施され、「主体的・対話的で深い学び」の実現が求められています。学

校における働き方改革が叫ばれる中にもあっても、授業力を高め続けていくことは、教員の大きな使命であり、三教研にとっても切実な願いであります。本会の事業がさまざまな学びの機会となり、各地域や各学校に広がっていくことを望んでいます。

今年度も主たる各部会・委員会、魅力と実効性のある研修活動が計画されています。他にも、教育研究におけるミドルリーダーの養成を目的とした「授業力養成講座」を開催します。また、昨年度リニューアルした三教研ホームページの内容を充実させていきます。ホームページでは、各部会・委員会の実践内容や各地区から寄せていただいた指導案を掲載していきます。

会員の皆様からの情報提供をお待ちしております。



今年度の研究大会・研修会の開催方法について、以下にまとめました（六月二十九日現在）。今後変更する可能性があります。ご了承ください。

☆研究大会・研修会

【開催予定】

書写実技講習会	7/30	岡崎
総合的な学習部会夏季研修会	7/30	安城
愛知県社会科教育研究大会	8/2	蒲郡
愛知県小中学校理科教育研究発表会	8/3	安城
愛知県生活科教育研究大会	8/3	豊橋
ICT活用研究会	8/3	幸田
造形部会夏季研修会	8/5	豊田
保健体育部会夏季研修会	8/5	豊田
特別活動部会夏季研修会	8/5	高浜
国語部会夏季研修会	8/6	岡崎
技術・家庭部会夏季研修会	8/6	幸田
愛知県小中学校音楽教育研究大会	8/20	名古屋
愛知県英語教育研究大会	10/26	安城
愛知県へき地教育研究大会	10/26	新城・設楽
愛知県統計教育研究発表会・講演会	11/16	名古屋
愛知県道徳教育研究大会	11/26	名古屋
愛知県書写書道教育研究協議会	令和4年1/18	名古屋
愛知県生徒指導研究大会	令和4年1/21	名古屋

【WEB・冊子等による発表・開催】

東海地方数学教育研究会研究大会	冊子
特別支援教育部会夏季研修会	紙上
養護教諭部会夏季研修会	紙上
愛知県学校図書館研究大会	WEB

【来年度に延期】
音楽部会夏季研修会

☆授業力養成講座

授業力養成講座Ⅰ（西三河）	8/24	刈谷
授業力養成講座Ⅰ（東三河）	8/25	新城
授業力養成講座Ⅱ（西三河）	11/5	刈谷
授業力養成講座Ⅱ（西三河）	11/24	刈谷
授業力養成講座Ⅱ（西三河）	11/26	高浜
授業力養成講座Ⅱ（東三河）	10/15	新城
授業力養成講座Ⅱ（東三河）	11/19	東栄

※ 今年度、五月十九日（水）に予定をしていた「定期総会」は、冊子の配付をもって開催とさせていただきます。岡田守会長を中心とした新体制の紹介とともに、令和二年度の事業報告・決算報告、令和三年度の事業計画・予算案について掲載しています。今年度も会員の皆様とともに、三教研の活動を推進していきます。ご協力、よろしく願います。

なお、教育講演会については、秋に延期をいたします。日程や開催方法については、後日お知らせいたします。

令和三年度

三河教育研究会役員

会長 北設 東栄中 岡田 守
副会長 岡崎 竜海中 伊豫田 守

顧問 岡崎 甲山中 柵木 幸
會計監査 岡崎 城北中 中野渡 善智幸

幹事 西尾 東部中 石川 雅善
西尾 平坂中 兼子 雅春

庶務 田原 田原中部小 彦坂 登一朗
知立 知立南中 本多 泰裕
北設 東栄小 後藤 藤恵
愛教大 附属岡崎中 増岡 潤一郎
愛教大 附属岡崎中 鈴木 則次郎
愛教大 附属岡崎中 杉浦 健次郎
愛教大 附属岡崎中 馬場 健介
愛教大 附属特別支援 石原 伸一
岡崎 広幡小 柴田 昌一
豊橋 汐田小 中神 和也
愛教大 附属岡崎小 廣川 幸平

会計 岡崎 廣川 幸平

◆評議員
(部会長)

国語 豊田 童子山小 小野 田健二
社会 安城 梨の里小

算数 岡崎 上地小 鈴木 勝久
理科 岡崎 岩津小 岡崎 寛史
生活 豊橋 豊津小 西尾 寺津中
音楽 西尾 寺津中 西尾 米津小
造形 西尾 米津小 西尾 米津小
保健体育 豊田 寿恵野小 豊田 梅園小
技術・家庭 岡崎 梅園小 豊田 寺部小
英語 (外国語活動) 豊田 寺部小 豊田 寺部小
道徳 豊田 衣笠小 豊田 衣笠小
特別活動 豊田 衣笠小 豊田 衣笠小
特別支援教育 豊田 衣笠小 豊田 衣笠小
養護教諭 豊田 衣笠小 豊田 衣笠小
総合的な学習 豊田 衣笠小 豊田 衣笠小

(各種研究委員会)

学習情報 岡崎 福岡中 森 竜師
学校図書館 岡崎 福岡中 森 竜師
統計教育 西尾 寺津小 河合 寛則
生徒指導 豊橋 東部中 梅原 康史
へき地教育 豊橋 東部中 伊藤 賢修

(支部長)

豊川 吉田方小 本多 宏成
豊川 天王小 大川 豊蔵
蒲郡 中部中 大野 邦彦
新城 東郷東小 森 誠
田原 東部中 河合 道博
北設 豊根中 大谷 知二
岡崎 矢作北中 大谷 知二
碧南 中央小 刈谷 双葉小
刈谷 中央小 刈谷 双葉小
豊田 藤岡中 藤岡中

◆常任委員

安城 桜井中 井上 幹夫
西尾 鶴城小 河邊 睦士
知立 知立東小 奥村 幸子
高浜 港小 奥村 幸子
みよし 北中 奥村 幸子
幸田 北中 奥村 幸子

総務委員会

委員長 豊川 南部中 松平 貴圭
副委員長 豊川 南部中 松平 貴圭
委員 豊川 南部中 松平 貴圭

広報委員会

委員長 安城 桜井小 鈴木 佳樹
副委員長 安城 桜井小 鈴木 佳樹
委員 安城 桜井小 鈴木 佳樹

調査委員会

委員長 岡崎 竜海中 伊豫田 守
副委員長 岡崎 竜海中 伊豫田 守
委員 岡崎 竜海中 伊豫田 守

委員 刈谷 双葉小 河野 浩一
委員 刈谷 双葉小 河野 浩一
委員 刈谷 双葉小 河野 浩一

教育随想

(89)

『半鐘に構える』



西尾市教育委員会
教育長

稲垣 寿

義務教育は半世紀以上にわたり、教職員の教育愛、無償の奉仕によって支えられてきました。賛否は別にしても、これは厳然たる事実です。OECD諸国中、最低に近い割合の教育予算で世界中、最低に近い割合の教育予算で世界

トップクラスの学力を維持してこれたのも、その恩恵に拠るところがあると思います。この善意の教育文化が昨今の教育改革と働き方改革の推進によって危うくなっています。働き手である教師の幸福感を斟酌せずに、一律に超過勤務時間で評価しようという体制にも幻滅します。GIGAスクールや地域部活動の推進にも首をかしげたくなる点があります。タブレットやデジタル教科書の配備計画の拙速さに、教育よりも経済活動を優先する意図を勘繰ってしまうのは私だ

けでしようか。地域部活動は、現実的な運用の見通しが立たないまま、保護者負担さえ厭われない威丈高な看板が掲げられています。文部科学省に加えて経済産業省やスポーツ庁の参画する教育改革は、教育現場の実情と乖離しがちで、経済格差や地域格差を拡大し、教育格差を浸潤させていくように思えてなりません。明治維新以降、日本が急速に発展できた基盤となったのは、熟練を極めた鉄の加工技術と世界一の識字率だったと聞いたことがあります。翻って考えるならば、教育格差の浸潤が未来を暗くするのは自明の理です。今、義務教育界にけたたましく半鐘が鳴っていると感ずる所以です。

加速するICT教育によって学習の効率化と個別最適化が進むことは大歓迎です。しかしながら、学習アプリやAIを活用した授業が、学校教育の主軸を代替できるかのごとき勘違いが窺われることがあります。リモート授業の推奨が、それに拍車をかけている観もあります。この風潮が学校に陰を落とすと、学習指導要領の趣旨を逸脱し、「知」のみが先行した、「徳」や「体」がおざなりになった教育の拡散が危惧されます。

私たちはこれまで「はじめに子どもあ

りき」を掲げ、教育実践に取り組んできました。子どもを捉えることからスタートし、子どもの思いに寄り添った学習活動を構想し、単元を抜けた時の子どもの姿を見据える授業づくりです。教科特有の能力や資質の獲得を単元目標としながらも、学習意欲をかき立て、子どもの生活意識や成長の自覚と結びつけることを通して、より豊かな学びを具現するというプロセスの中で、子どもの変容を多面的に見ていくことを大切にしてきました。その優れた教育実践の中では、教科の力のみならず、子どもの姿を丸ごと捉え、その成長を期したはずです。この姿勢こそが、道徳は言うまでもなく教科の授業においても子どもの全人的な人間形成を願う三河教育の真価ではなかったでしょうか。「子どもを捉える」という至極当たり前の授業づくりの前提には、教育活動の根幹を示唆する精神性が秘められているように思います。

「迷ったら子どもに戻る」この金言は、まさに教育者の羅針盤です。半鐘の鳴る今こそ、三河教育の良心をもって私たちの構えを確かめたいと願うものです。



編集後記



コロナ禍により大会そのものは是非が議論されていた東京五輪まで十日余りとなりました。これまで、出場を目指すアスリートらは決して気持ちを切らすことなく練習や大会に取り組んできました。陸上百メートルで日本新記録をたたき出した山縣選手は、まさに東京五輪に照準を合わせ、けがを乗り越えての偉業達成でした。

三河教育研究会もコロナ禍ではありますが、これまで同様、子どもの成長や教師力の向上を願う気持ちを切らすことなく、創意工夫を凝らした研究大会や研修会が開催されることを期待しています。

ご多用の中、原稿をお寄せいただいた皆様に感謝申し上げます。

表紙の写真

「思いを一つに、協力し合った
みどりの学校」

撮影 碧南市立新川中学校

豊倉 啓輔 先生

カット

愛知教育大学附属特別支援学校

児嶋 佑紀 先生